

踏み跡 < My mountains >

奥多摩

御岳山・大岳山・馬頭刈尾根

No.001

昭和36年4月5日

牛込郵便局で内勤のアルバイトをしていた。ポストから回収してきた郵便物や窓口で受付けた郵便物を配送先都道府県別に区分して配送する仕事を主に担当していた。地名を数多く知っていたことや新しい地名を覚えるのが早かったせいか、アルバイトながら役に立つ若者と思われていたらしい。日を重ねるにつれて郵便局員の皆さんからも親しく接していただけるようになっていた。

ある日、郵便局員の永岡さんから「牛込郵便局・電報局の山岳部（白駒山岳会という）の親睦ハイキングがあるから来ないか」と誘われた。一人では何となく心許ないので、同時期に北千住の郵便局でアルバイトをしていた同級生の白尾君を誘って参加した。

登山などしたこともないので、Gパン、バスケットシューズ、旅行用に持っていたみずの製のポケット付サブザック、おふくろが作った握り飯で参加。これが我が人生における初の登山になった。

いただいた予定表も残っていないし、旅の記録のメモなどとりもしなかったので、何も残っているものはない。

記憶にあるのは、ガスに煙る御岳山ケーブルカー、霧雨の大岳山での昼食。

御岳山は929m、その南の大岳山は1267m、つづら岩を通り抜けて馬頭刈山（ますかりやま 884m）へ、バスケットシューズで不慣れな岩場を滑り落ちることもなくよく歩き切れたものだと、後になって感心した。

馬頭刈山からの根の大きく張り出した杉木立の下りは素人には大変だったように憶えているが、足を痛めることもなく無事下りきることができた。下り道の歩き方は資質として備わっていたのかもしれない。

永岡さんほか主たるメンバーは、もう相当山を歩きこんでいる感じて、大きな登山靴と薄汚れたザックの後ろ姿が輝いて見えた。

このハイキングへの参加のおかげで、アルバイト先の色々な方々（先輩）とさらに親しくなることができた。

奇遇なことに、このハイキングに参加したメンバーの中に姉の高校の同窓生のKさんという女性がいた。なぜ郵便局員でもないのにいたのかわからないが、誰かのガールフレンドだったのかもしれない。

汗を流しながら登る彼女の大きなお尻が印象的だった。



<後日談>

何故かこの体験が火付け役になり、このあと私の山歩きが始まることになった。

16歳 11ヶ月の春のこと。

父が病気をしたことで自分の学費は自分で稼ごうと思ひ、近くの郵便局でアルバイトを始めた。

時給は内勤だと50円、外勤（配達）だと80円だった。アルバイト先でいい人達に巡り会ったこともあり、足しげく通った。

おかげで学校の月謝（6ヶ月前納 1800円）を払ったあと大分残るようになったが、これがすべて山へ消えることになった。

以上

（修正・更新：2023年9月）